

学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

1 学校のミッション

これまで「知識基盤社会」に必要とされる主要能力（キーコンピテンシー）の定着をめざし、教育課程の研究開発等に先進的に取り組んできた。また、生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を一層育むことをめざした不断の授業改善の実施等、時代や社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力の育成に向けた教育活動に取り組んできた。今後も引き続き、学校全体で次のことに取り組む。

- ◎ 中・高連携による新たなカリキュラムの研究開発、中・高・大の連携型教育の検討
- ◎ 教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究）としての研究開発
- ◎ 学力向上進学重点校エントリー校として学力向上進学重点校の指定に向けた取組

2 学校教育目標

- SDGsの達成、Society5.0と呼ばれる新たな社会の担い手の一人として、多様性に富んだ「心やさしき社会のリーダー」を育成する。
- 教科・科目と総合的な探究の時間（光陵ユニバース：KU）を連関させて、生徒の主体的かつ探究的な学びにより、よりよく課題を発見し、解決する力を育む。
- 高い進路目標を持つ生徒一人ひとりの進路実現に向けた支援を行うとともに、豊かな教養を身に付けさせる。
- 部活動や学校行事をさらに工夫・充実させ、豊かな人格形成に努める。
- 横浜国立大学及び横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との連携を一層深め、中・高・大の連携型教育の検討を進展させる。
- 生徒の多様な力を育成するために教科等横断的な取り組みを推進するとともに、その成果を広く発信する。

3 計画策定時点での課題

- 「光陵ユニバース（KU）」の取組姿勢や有効性の理解に、生徒による差がある。意欲に課題のある生徒の「光陵ユニバース」への意欲を高める必要がある。
- 部活動入部率が高く、部活動に真剣に取り組む生徒の進学実績も高いことを生徒に実感させる必要がある。
- 進学にあたって第一志望を維持できず、志望校を変更する生徒もいる。
- カリキュラム・マネジメントを通じて、教科等横断的な授業の実施、思考力・判断力・表現力等を見とる作問、最終的にKUへの結実をめざすことに改善の余地がある。
- 活発な発表やグループワークによる主体的・対話的な学びの充実と、基礎学力及び豊かな教養の向上の相乗的実践に課題がある（学力向上進学重点校エントリー校との取組と教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究）、連携型中高一貫教育校の相乗効果が顕著に見られていない）。
- KUのテーマ設定について時間をかけるようになったが、「課題の発見」、「問いをたてる」といった活動の質をもっと高めていく必要がある。
- 保土ヶ谷養護学校との交流はあるが、日常からの小学校、自治会等との連携は十分ではない。地域の期待に応える資質を持つ生徒であり、地域連携の推進が課題である。

4 4年間の目標と主な方策（令和2年度～令和5年度）

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養をめざし、多様な学習活動において深い学びを実現していく。 横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「見方・考え方」を自在に働かせられるような、教師の専門性の発揮と不断の授業改善を実施する。 学習指導要領の移行期間及び実施に伴う教育活動を展開する。 教職員研修、体験授業や教育実習生等の受入れなど相互に連携を図り、関わりをより深めていく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。 学校行事において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していただけるよう支援を行う。 生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い部活動加入率を維持するとともに、部活動や学校行事に参画する経験が生徒の主体性や創造性、社会性を高めることを意識させる。 様々な場面での活動を通して、生徒の主体的な活動を支援する。 生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を組織的に行う。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革（高校教育、大学入学者選抜、大学教育）を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探求を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに高い目標を意識させ、最も志望する進路が実現できるよう支援する。 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、進路ガイダンスを充実させる。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 保土ヶ谷養護学校との交流事業を継続して実施する。 近隣の学校、自治会等との連携、交流を進展させ、生徒の参加を促す。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。 コミュニティスクールとして、学校運営協議会での意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。 生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を含め、職員同士が目的意識を共有し、日常的な情報交換・コミュニケーションを促進する。 学校運営協議会とともに、学校づくりを行っていくという意識を高め、協働して取り組む。 質の高い授業の実施、教育相談体制の充実、教育施設や防犯体制の拡充を図る。 校内の設備点検等を行い、改善点について、県や業者との協議や連絡を密にする。 年間を見通して計画的に学校運営を図る。ICT利活用による報告・連絡・相談体制の多様化を図る。